

(4)中学校グループB

発表者 荒木 佑介 (釜石市立甲子中学校 教諭)

4) 本協議会で今後議論したいこと

災害に対する心の指導をしっかりとやっていきたいです。各学校の発表を見たときに、津波が多かったのですが、その他、土砂災害や洪水・火山等ひとつに特化することは難しいですが、いろんなパターンを出し合ったときに何か良いことがあるのではないかということになりました。例えば避難訓練の仕方でも、山に上る、遠くへ走ってみるなど、いろんなパターンをだすことで、また違った面が見えてくるなどです。その中で指導する側もいろんなジレンマや心の葛藤があります。本当に気合いをいれてやっているのか、などです。

私は釜石の甲子中学校に勤務しており、山の近くで今回の大震災でも津波は来ませんでした。避難訓練も津波では全くできません。毎回火事です。そこで生徒をどうやって本気にさせるか、ということも難しいです。いろんな地区の実践内容を聞き、こういうこともあるんだよということで日本全国の学校が高まっているのかなと思います。

あとは、防災ということで、災害が起きてしまった後のことも子どもたちは考えています。甲子中学校は釜石地区の中でもほとんど被害がありませんでした。震災のあとは避難所になり、避難所経営をやりました。想定外という言葉が思い浮かびました。私は海の近くで育ちましたが、ずっと津波は来ないと思っていました。そんな中で津波が来て、避難所経営をするにあたりビックリしたことは、子どもたちが自分で動いたことです。翌々日が卒業式だったのですが、それを我慢して、段ボールを集めてきたり、毛布を集めてきたりしました。そういったことは、いっさい報道ではされていないので、わかってもらえていないと思います。こういう葛藤を乗り越えて私たち誰かがやったことがみんなのためになります。そのみんなのやったことが誰か一人のためになります。

今回の大震災の釜石の惨状を全国のいろんな人のために使ってほしいと思います。その全国のみなさんのやったことがまたどこかの誰かのためになると思います。釜石から全国に発信し、全国の誰かが発信したことがどこかへ行きます。そのときには釜石を思い出してください。最終的に心の指導をしていけば何とかなるのかなと思います。自分で考えて行動できる子どもたちが育っていけばいいなと思います。

